

南丹保健所管内の感染症発生動向調査による週報 (急性呼吸器感染症定点、小児科定点、眼科定点、全数報告)

第 51 週 2025 年 12 月 15 日 ~ 2025 年 12 月 21 日

今週のコメント

南丹保健所管内では、インフルエンザが警報レベル継続中です。
全国・京都府全体(京都市以外)でも、インフルエンザが警報レベル継続中です。

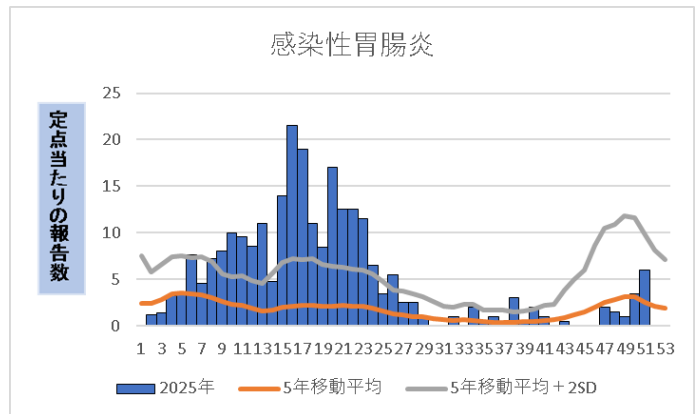
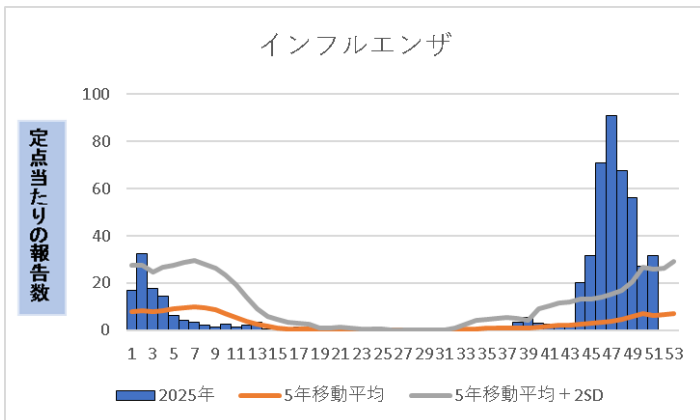
2025 年第 51 週の報告です。

○インフルエンザの定点当たりの報告数は南丹 31.50(前週 27.25)、京都府 39.25(前週 41.85)となっています。

○感染性胃腸炎の定点あたり報告数は、南丹 6.00(前週 3.50)、京都府 4.03(前週 4.53)となっています。

○A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎の定点当たりの報告数は南丹 5.00(前週 3.50)、京都府 4.35(前週 4.23)となっています。

今週のグラフ (下記のグラフは管内上位2位疾患のグラフを掲載しています)



※横軸は週数 縦軸は定点あたりの報告数を示しています

1 『5年移動平均』は、過去5年間の平均値の変化を表しています。

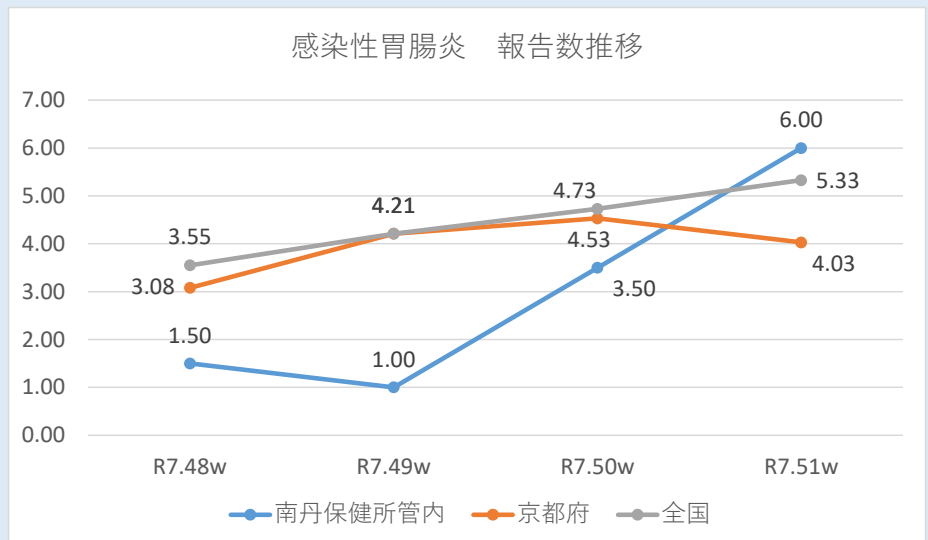
2 『5年移動平均+2SD』は、過去5年間のデータのばらつきを考慮した上限を示しており、データの約95%がこの線より下に収まるとされる基準です。

感染性胃腸炎に注意しましょう！

感染性胃腸炎の定点あたり報告数は、京都府を除き、南丹保健所管内、全国ともに増加傾向にあります。

感染性胃腸炎は、ウイルスや細菌が原因で嘔吐や下痢、腹痛などを引き起こす病気です。今の時期は、ノロウイルスなどによるウイルス性胃腸炎が多く見られます。感染を防ぐためには、食事の前やトイレの後などにこまめで丁寧な手洗いをすることが大切です。食品の十分な加熱(85度~90度で90秒以上)や調理器具の衛生管理も重要です。

ノロウイルスは、アルコール消毒の効果は薄いとされていますので、家庭内で感染者が出た場合、嘔吐物や便の処理は手袋やマスクを着用し、次亜塩素酸ナトリウム(家庭用漂白剤)で消毒してください。感染した場合は水分補給をこまめに行い、脱水を防ぎましょう。ウイルス性胃腸炎の場合は特異的な治療法はなく、症状に応じて整腸剤や制吐剤、水分補給目的の点滴などの対処療法がおこなわれます。特に乳幼児や高齢者では脱水症が懸念されますので、飲んで吐いてしまうなどの状態が続く場合は早めに医療機関を受診してください。



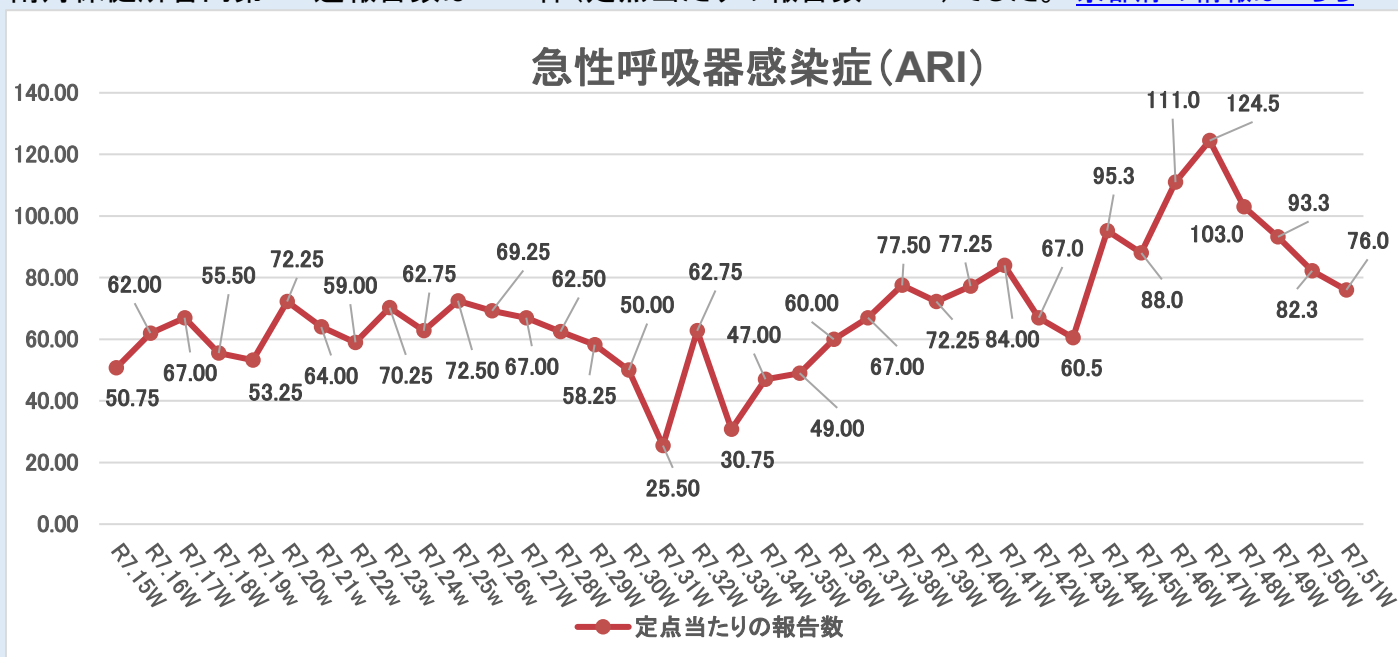
各定点把握疾患 発生状況(南丹管内)

	警報レベル		注意報	R7.51w		前週定点 (参考)
	開始	終息		定点当たり 報告数	前週比	
インフルエンザ	30	10	10(流行1)	31.50	↗	27.25
新型コロナウイルス感染症				0.75	↘	1.00
RSウイルス感染症				2.00	↗	1.50
咽頭結膜熱	3	1		0.00	→	0.00
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	8	4		5.00	↗	3.50
感染性胃腸炎	20	12		6.00	↗	3.50
水痘	2	1	1	0.50	→	0.50
手足口病	5	2		0.00	→	0.00
伝染性紅斑	2	1		0.50	→	0.50
突発性発しん				0.00	→	0.00
ヘルパンギーナ	6	2		0.00	→	0.00
流行性耳下腺炎	6	2	3	0.00	→	0.00
急性出血性結膜炎	1	0.1		0.00	→	0.00
流行性角結膜炎	8	4		0.00	→	0.00

急性呼吸器感染症(ARI)について

急性呼吸器感染症(ARI)とは、急性の上気道炎(鼻炎、副鼻腔炎、中耳炎、咽頭炎、喉頭炎)又は下気道炎(気管支炎、細気管支炎、肺炎)を指す病原体による症候群の総称です。インフルエンザ、新型コロナウイルス、RSウイルス、咽頭結膜熱、A群溶血性レンサ球菌咽頭炎、ヘルパンギーナなどが含まれます。

南丹保健所管内第51週報告数は304件(定点当たりの報告数:76.00)でした。[京都府の情報はこちら](#)



最新情報は下記のリンク先でご確認ください(関連リンク)

・[京都府感染症情報センター](#)

更新時期:(原則)毎週木曜日 14時 前週分の状況を更新

・[感染症の情報\(国立感染症研究所\)](#)